

特集 ひと・まちを動かすマネジメント

21 世紀に入って既に 15 年が経過した。この間に国内全体では人口減少社会に転じ、住宅をはじめとする建築物は充足し、道路、交通、公園、河川などの公共空間の整備が進んだ。今後は、整備された公共空間をいかに魅力的に活用するか、かつて「行政主導」で行われていた「つくる時代」から、今後は「地域主体」による「育てる時代」への転換が求められている。

こうした中で今回注目したのが「マネジメント」というキーワードである。個々の建築物の「マネジメント」や地域の魅力創出などを目指す「エリアマネジメント」など、「ひとやまちを動かすマネジメント」を特集テーマとし、弊社スピーシアの取り組みを紹介したい。

愛知登文会特別公開

所有者の意識が変わる

石田富男

愛知登文会が設立して四年目。これまでの活動の成果を踏まえた新たな取組として実施された国登録有形文化財特別公開。県民に登録文化財の魅力を知ってもらう機会として位置づけられたものだったが、登録有形文化財の所有者の意識変革を促す機会となっていることにも注目したい。

愛知登文会三年間の活動の成果

愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会（略称…愛知登文会）は愛知県内の登録有形文化財の所有者で組織されており、都道府県単位の組織としては四番目にあたる。文化庁の補助を受け、①文化財所有者プロジェクト、②文化財こども連携プロジェクト、③観光ボランティアガイド連携プロジェクトを実施。百三十五カ所の登録文化財のうち三年間で三十七カ所で事業が実施された。これらを通じて、登録文化財所有者、専門家（建築家）とのネットワークが形成され、その成果を活かした新たな取組として実施されたのが今回の特別公開である。

専門家との連携

三十カ所で建物解説を実施。うち十八カ所では、すでに関わりの深い専門家がみえる場合にはその方に解説お願いしたが、特にそのような方がみえないところについては、愛知ヘリテージ協議会及びなごや歴まちびとの会に推薦いただき講師をお願いし、九名の協力が得られた。建物解説は普段何気なくみているものにも理由があったり、先人の知恵が隠されていることを知る機会となり、建物に対する愛着が増す。専門家ならではの解説は好評だった。

特別公開の意義

この特別公開の大きなねらいは県民に対して文化財に親しんでもらう機会を提供しようというもので、愛知登文会として一斉に取り組むことによってこれまで公開をしたことがなかった所有者にその機会を提供するとともに同時開催によるPR効果をねらったものである。後者については中日新聞にとりあげあげられたものはじめての試みであることから企画のとりまとめに手間取り、十分な広報ができなかった。

所有者による主体的取組

広報の点では課題を残したが、これらの取組を通じて建物活用の進展が図られたことは大きな成果であるといえよう。



尾関家住宅（犬山市）
犬山焼を復興した窯元の屋敷。建物改修が行われ、ギャラリーとしてこの秋から活用されることになった。



棚橋家住宅（名古屋市中区）
有松の絞問屋の店舗・住宅。改修によってつくられた多目的スペースを使った展示も行われた。



柴田家住宅（清須市）
下小田井の市で栄えた美濃路に面する明治期の商家。復活された西枇杷島祭の山車に付随する野風炉も展示された。

特別公開の概要

普段公開されていない登録文化財の公開や専門家・所有者等による建物解説を 37 カ所において実施。建物解説は 30 カ所所で約 800 人の参加があり、自由見学も含め全体で延べ 3,000 人以上の来訪があった。

10月26日（日）

犬山市：旧磯部家住宅／旧堀部家住宅／大島家住宅茶室／川村家住宅／尾関家住宅／寂光院／旧加茂郡銀行羽黒支店／吉野家住宅／明治村（森鷗外・夏目漱石住宅／学習院長 官舎／北里研究所本館・医学館）
清須市：柴田家住宅
一宮市：旧湊屋

11月3日（月・祝）

名古屋市中区：名古屋陶磁器会館／建中寺徳興殿／日本福音ルーテル復活教会／徳川美術館本館／東海学園講堂／金城学院栄光館／カトリック主税町教会
名古屋市中区：名古屋テレビ塔
名古屋市中村区：寛家住宅
名古屋市瑞穂区：名古屋市東山荘
名古屋市緑区：中濱家住宅／棚橋家住宅

11月9日（日）

岡崎市：八丁味噌本社事務所／岡崎信用金庫資料館／旧愛知県第二尋常中学校講堂／旧本多忠次邸／旧愛知県岡崎師範学校武道場／旧石原家住宅
西尾市：実相寺
豊田市：名鉄三河線旧三河広瀬駅
豊川市：トヨタテック本社社屋（旧豊川電話中継所）／旧豊川電話装荷線輸用槽
新城市：大野宿美術珈琲鳳来館（旧大野銀行）
半田市：小栗家住宅
知多市：木綿蔵ちた／知多岡田簡易郵便局

尾関家住宅はこども文化財体験に続く

二度目の取組である。最初にここを訪れた際、建物は倉庫のように使われていた。犬山焼の絵付け体験を行うために整理されたが、このことが建物の価値を見直す機会になったのだろう。その後、改修が行われ、特別公開の数日前にギャラリーとしてオープンされた。一年前とは見違えるような変貌に驚いた。

棚橋家住宅は保存・活用講座、こども文化財体験に続く三度目の取組である。

ここは空き家になっていった建物を所有者が改修し多目的スペースとしてイベントなどに利用している。改修に関わった建築家はその活用にも積極的に関与。特別公開では「よみがえる棚橋家の記憶」として病院時代の備品等の展示も行われた。

柴田家住宅はこども文化財体験、観光ボランティアガイド見学講習の実施に続く、この夏には西枇杷島まつりにあわせ関係者に対して建物公開が行われた。今回はより多くの人々に見てもらおうと周辺住民に案内が配付され、四十三名もの来訪があった。所有者は朝の九時からほとんど休みなしで六回もの建物解説を実施。説明のために美濃路や柴田家の歴史を調べた手持ち資料も作成された。

他でも来訪者へのおもてなしなど所有者の積極的な取組がみられた。多くの人々に来訪していただいたり、専門家に解説してもらったことが、文化財建造物を継承していくことの意義を再認識する場にもなったようだ。特別公開が新たな展開のきっかけになることを期待したい。